

基準 10. 社会連携

10-1. 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

(1) 10-1の事実の説明（現状）

10-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされているか。

施設の開放としては、グラウンドを地元京都府南丹市の中学校、隣接市の亀岡市サッカー協会、京都府高等学校体育連盟及び京都府内の高等学校等に、体育館等を南丹市体育協会、南丹市バレーボール協会及び京都府南丹警察署に貸し出すなど、体育施設の開放を行っている。校舎は、WHO第3回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議や日本柔道整復接骨医学会学術大会、人体科学会、日本解剖学会近畿支部等の各種学術団体等に貸し出すなど、要望があれば積極的に開放している。

公開講座については「財団法人大学コンソーシアム京都」が主催する「京カレッジ市民教養講座」を京都市内の「キャンパスプラザ京都」で、平成14（2002）年から現在に至るまで年間2回から4回開催し、6年間継続的に実施している。（表10-1-1）

【表 10-1-1】「京カレッジ市民教養講座」

No	開催日	受講人数	演 題
1	平成 14 年 9 月 29 日	30	「癒しの伝統医療」
2	平成 14 年 10 月 27 日	30	「伝統医療からみた病と健康」
3	平成 15 年 6 月 14 日	50	「健康は胃腸から —胃腸の調子を整えるツボ療法—」
4	平成 15 年 7 月 27 日	35	「腰のマイナートラブル —その予防と養生—」
5	平成 15 年 9 月 28 日	30	「季節病の予防と養生 —夏ばて、クーラー病に対する伝統医学—」
6	平成 15 年 11 月 30 日	31	「尿のマイナートラブル —尿もれ、頻尿に対するツボ療法—」
7	平成 16 年 6 月 20 日	126	「東洋医学によるレディースのためのヘルスプロモーション —ツボ療法の実際—」
8	平成 16 年 9 月 26 日	50	「スポーツを健康的に楽しむために」 「スポーツ障害とツボ療法について」 「スポーツによるケガの予防について」
9	平成 17 年 6 月 26 日	75	「心のトラブルに対する現代西洋医学と伝統医学による健康講座」
10	平成 17 年 8 月 28 日	59	「痛みに対する現代西洋医学と伝統医学による健康講座」
11	平成 17 年 11 月 6 日	79	「生活習慣病に対する現代西洋医学と伝統医学による健康講座」
12	平成 18 年 6 月 25 日	70	「介護に役立つ看護学と伝統医学」
13	平成 18 年 9 月 3 日	92	「スポーツ傷害に対する現代医学と伝統医学による健康講座」
14	平成 18 年 10 月 29 日	148	「主婦は家庭のお医者様 家族の健康状態、体調や気分に応じた

			食事療法」
15	平成 19 年 7 月 1 日	192	「アンチエイジングと伝統医療 ー老いて華やぐー」
16	平成 19 年 9 月 2 日	119	「アンチエイジングと伝統医療 ー一病息災の智慧ー」
17	平成 19 年 10 月 28 日	180	「アンチエイジングと伝統医療 ー健やかに年を重ねるー」

これまでの公開講座は社会的ニーズや参加者からの意見を考慮し、伝統医学を中心に市民に身近な演題として「ストレスや肩こり、スポーツ傷害、生活習慣病」等のテーマを取り挙げてきた。

参加者も開講当初は、30人程度であったが、平成19（2007）年度の第1回公開講座では190人を超えている。

平成20（2008）年3月には、本学附属鍼灸センター主催の第3回市民公開講座を南丹市国際交流センターで開催し、117人の参加者があった。

（2）10-1の自己評価

施設の開放については、近隣地域の高等学校や諸団体及び各種学術団体などの要望に応え、施設の貸し出しを積極的に実施している。

公開講座は、開催回数17回、延べ1,396人（平均82.1人）の参加があり、参加者も年々増加傾向にあることから、市民の要望にあった講座が開催できていると評価できる。また、本学が蓄積した各学部の最新の知識と情報を地域社会に提供し、健康増進への貢献に寄与していると考えられる。

（3）10-1の改善・向上方策（将来計画）

施設の開放については、引き続き要望があれば積極的に開放を行っていく。

公開講座は、今後も「鍼灸」「柔道整復」「看護」「伝統医療」「健康医療」をキーワードとし、社会的ニーズに沿ったテーマで実施し、参加者の健康の維持・増進のために役立てるよう、継続していく。

10-2. 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること。

（1）10-2の事実の説明（現状）

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

他大学等との連携については、平成19（2007）年5月に、京都府立医科大学と「教育及び研究内容の充実、発展を図る」ことを目的とした学術交流協定を締結した。

また、平成18（2006）年9月には、独立行政法人放射線医学総合研究所と大学院鍼灸学研究所の間で、教育研究に対する連携・協定に関する協定を締結した。

さらに、ポルトガル共和国「The College of Acupuncture and Moxibustion of A.P.A.E. for Medical Doctors Only」と「東洋医学（日本の鍼灸医学）の教育研究の交流を通じ、両校間の相互理解を深め、ポルトガル共和国における東洋医学（日本の鍼灸医学）の発展に寄与する」ことを目的とした友好学術交流協定を締結した。

本学は、大学、地域社会及び産業界との協力による大学教育改善のための調査研究、情報発信交流、社会人教育に関する企画調整事業等を行い、これらを通じて大学と地域社会及び産業界の連携を強めるとともに大学相互の結びつきを深め、教育研究のさらなる向上とその成果の地域社会・産業界への還元を図る目的で設置された「財団法人大学コンソーシアム京都」に加盟している。

「財団法人大学コンソーシアム京都」が主催する単位互換制度においては、本学学生が他大学の科目を受講している。また、本学からは、東洋医学に関する科目として、「東洋医学概論（2単位）」、「東洋医学の養生論(2単位)」を単位互換科目として提供した。受講実績として、平成18（2006）年度は145人が、平成19（2007）年度は135人が受講した。

また「財団法人大学コンソーシアム京都」が主催している前述の「京カレッジ市民教養講座」についても共同開催するとともに他の事業においても、参画している。

受託研究等については、主に民間企業からの受け入れであり、平成19（2007）年度実績は21件であった。また、京都府内の複数の企業と実施した「薬膳料理の効果について－科学的指標による検証－」の受託研究は、既に研究期間を終えているが、現在も本学の監修による薬膳料理が提供されている。

平成20（2008）年2月には、京都府立医科大学が主催する「京都発 医・工・薬 産学連携フォーラム」に共催大学として参加している。

大阪大学大学院医学系研究科の生体機能補完医学講座（補完代替医療（CAM：Complementary & Alternative Medicine）に関する講座）との協同研究として、同大学附属病院において、鍼灸臨床を行っている。

（2）10－2の自己評価

他大学等との連携については、それぞれの目的を意識し、参画又は協定等を行っていることから意義のある取り組みができています。

「財団法人大学コンソーシアム京都」が企画運営する様々な事業は、大学、地域社会及び産業界との連携を行う上で、有意義なものが多く、積極的に参画していくことが必要である。

受託研究等については、医学教育研究センター並びに鍼灸学部の教員が研究責任者となり多くの実績を残しているが、保健医療学部及び看護学部の教員の積極的な研究活動を促進する必要がある。

京都府立医科大学が主催する「京都発 医・工・薬 産学連携フォーラム」は、医学、工学、薬学に関連する企業も連携して実施していることから、引き続き共催大学として参加することは意義があると考えます。

（3）10－2の改善・向上方策（将来計画）

他大学との連携については、新たな連携に向けて、情報収集を行う。

「財団法人大学コンソーシアム京都」が行う事業については、本学の教育研究上において有意義なものは積極的に参画する。

企業等との連携については、現在も行われているものは継続しながら、大学の持つ

教育研究資源を広く社会に提供できるように努める。

10-3 大学と地域社会との協力関係が構築されていること。

(1) 10-3の事実の説明(現状)

10-3-① 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。

地域諸団体、鍼灸師会、看護協会等様々な研修会・講演会等に講師を積極的に派遣しており、平成19(2007)年度は203件の講師派遣等を行っている。

平成19(2007)年度に講師派遣等を行った主要なものについて表10-3-1に示す。

【表10-3-1】平成19年度講師派遣一覧

月 日	派遣依頼者	目的・内容等	場所
4月19日 4月26日 5月15日	南丹市福祉事務所	保育園児の眼科検診	日吉中央保育所・興風保育所・胡麻保育所
4月22日	日吉ダムマラソン実行委員会	日吉ダムマラソン大会医師業務	府民の森ひよし・日吉ダム湖周辺
5月14日	亀岡市健康福祉部	亀岡市介護支援専門員部会 「京都府南丹圏地域リハビリテーション 連携指針活用と亀岡市地域における地域 リハビリ(病院・施設・在宅)連携の推進 に向けて」	ガレリアかめおか
5月17日	京都府立丹波養護学校	平成19年度定期健康診断	京都府立丹波養護学校
5月19日 ～20日	KYOTO南丹ラリー2007 in ひよし大会事務局	「KYOTO南丹ラリー2007 in ひよし」に おける救護担当医師業務	府民の森ひよし・日吉ダム湖周辺
5月22日 5月29日 5月30日	南丹市教育委員会	平成19年度眼科健診	殿田中学校・殿田小学校・胡麻郷小学校
6月1日～ (期間内 27回)	南丹市	平成19年度機能訓練事業にかかる理学療法	八木保健センター・日吉保健センター 美山保健センター
6月22日	兵庫県立視覚特別支援学校	第44回理療公開講座	兵庫県立視覚特別支援学校
6月25日	(独)国立病院機構近畿ブロック	平成19年度保健師助産師看護師実習 指導者講習会 「実習指導の原理と方法①」 「実習指導の原理と方法②」	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
7月8日 12月9日	(財)京都府体育協会	平成19年度京都府スポーツ指導者研修会 「救急処置」 (心肺蘇生法、RICE等、除細動器の 実習等)	京都府スポーツセンター会議室
7月13日	(独)大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター	看護部継続教育講座 「入院生活を送る子どもの危機的状況を 援助するために」	大阪府立母子保健総合医療センター研究棟研修 会議室
8月23日	京丹波町立和知中学校	教職員研修会 講演および実技 「けがの予防法及び対処法」	京丹波町立和知中学校
8月27日	京都府立盲学校	教員の資質向上のための研修会 「トリガーポイントの基礎と臨床」	京都府立盲学校
8月27日 ～29日、 9月8日 ～13日	京都府保健福祉部	平成19年度看護教員養成講習会 講義:看護教育方法(在宅看護) 演習:在宅看護論	京都府看護協会研修センター
9月3日	(社)京都府看護協会	(社)京都府看護協会研修会 「看護研究における研究計画書の書き方」	京都府看護協会研修センター
9月20日 9月27日 10月11日 10月18日	京都府南丹保健所長	「地域リハビリテーション研修会」 (基礎編) 「自分を守る介護術」 「相手を守る介護術」	明治鍼灸大学・公立南丹看護専門学校 明治鍼灸大学附属総合リハビリテーション センター

看護職者を対象とした「看護学部リカレント学習講座」を開催しており、平成18(2006)年度及び平成19(2007)年度にそれぞれ計5回に亘り実施し「看護研究の基礎」について本学の教員が講義した。(地域の看護専門学校や医療機関より各々12人

の参加があった。)

平成19(2007)年度から、本学の近隣各高校を対象として、クラブ活動における安全性の向上を図り、競技力向上を目指すために「ケガの予防、応急処置とコンディショニング講習会」を実施している。

南丹市からの要請を受け、日本赤十字社京都府支部福知山血液センターによる献血事業に、毎年5月と10月の年2回、大学構内において協力している。平成19(2007)年度は5月23日と10月24日の2回で、協力者は、受付数で5月は83人、10月は85人(献血者は5月72人、10月67人)であった。

(2) 10-3の自己評価

表10-3-1に示すとおり大学の教員を様々な地域団体等に派遣することにより、大学と地域社会との協力関係は構築されていると考える。

地域医師会の学術講演会や地域の専門医を対象とした研究会では、本学教員が専門領域の講義を行い、地域医師会会員や地域の専門医の最新の知識並びに技術の提供を行うことで、参加者のレベルの向上に寄与していると考えられる。

看護職者対象の「看護学部リカレント学習講座」や近隣高等学校のクラブ活動を実施する高校生等を対象とした「ケガの予防、応急処置とコンディショニング講習会」は好評であると評価している。

南丹市からの要請に基づく献血事業については、学生及び教職員とが積極的に協力しており、貢献できていると考える。

(3) 10-3の改善・向上方策(将来計画)

教員を様々な地域団体等に派遣することにより、大学と地域社会との協力関係は構築できることから、引き続き協力できるように努める。

「看護学部リカレント学習講座」や「ケガの予防、応急処置とコンディショニング講習会」は、参加者からの意見や要望を踏まえ、引き続き実施することで、より充実したものに発展させる。

南丹市からの要請に基づく献血事業については、引き続き協力する。

【基準10の自己評価】

施設の開放については、近隣地域の高等学校や諸団体又は学術研究団体などの要望に応え、施設の貸し出しを積極的に実施している。

公開講座は、参加者も年々増加傾向にあることから、市民の要望にあった講座が開催できていると評価できる。

他大学等との連携については、意義のある取り組みができています。

「財団法人大学コンソーシアム京都」が行う事業は、積極的に活用する必要がある。

受託研究等は、本学の教育研究活動を促進することに繋がるので、積極的に受け入れる必要がある。

京都府立医科大学が主催する「京都発 医・工・薬 産学連携フォーラム」は、引き続き共催大学として参加することは意義がある。

【基準10の改善・向上方策（将来計画）】

施設の開放については、引き続き要望があれば積極的に開放を行っていく。

公開講座は、今後も社会的ニーズに沿ったテーマで実施し、参加者の健康の維持・増進のために役立てるよう実施する。

「財団法人大学コンソーシアム京都」が企画運営する様々な事業を、引き続き積極的に利活用していく。

産学連携による共同研究を推進し、受託研究等の受け入れを一層促進するために、「リエゾンオフィス」となるような組織の設置について検討する。